

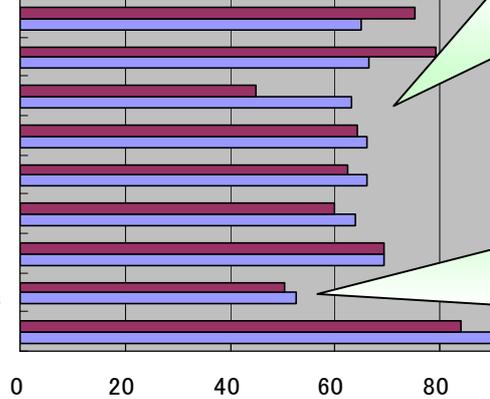
# 指導改善の手引き <中学校 社会編>

◆◆平成 21 年度 仙台市標準学力検査の結果と分析から◆◆



## 中学 1 年生の結果

地球環境と国際連合の働き  
日本国憲法  
明治維新と世界に歩み出した日本  
織田・豊臣～徳川家光の時代  
聖徳太子～藤原道長の時代  
日本の工業生産  
日本の食料生産  
日本の気候  
地図帳の使い方



大日本帝国憲法に関連する選択問題では期待正答率 70.0% に対して、正答率 34.5% で、日清戦争の影響（八幡製鉄所の操業）を選択させる問題では、期待正答率 40.0% に対して、正答率 13.3% でした。

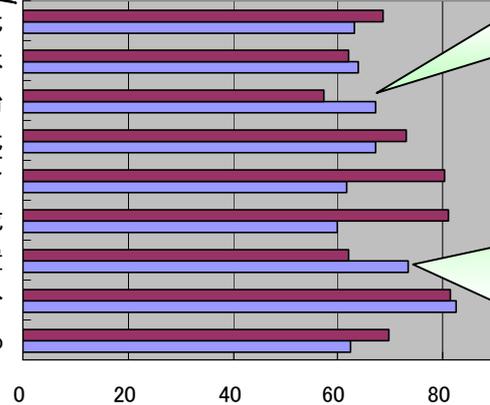
■ 市平均正答率  
■ 期待正答率

雨温図の示す都市を答えたり、食料自給率のグラフを読み取ったりする問題等、グラフの読取問題の正答率は落ち込んでおり、それぞれ 33.1%、45.1% でした。

戦国大名の政策の特徴を問う選択問題では、期待正答率 70.0% に対して、正答率 42.1% でした。

## 中学 2 年生の結果

近世の日本－安土桃山時代  
中世の日本  
7～11世紀の政治  
弥生時代～古墳時代  
地域の調査－関東地方と東京都  
日本の地域構成  
日本の国土の位置  
世界の国々の構成と地域区分  
地球の姿をとらえる



奈良時代の特徴を問う選択問題では、期待正答率 55.0% に対して、正答率 29.9% でした。

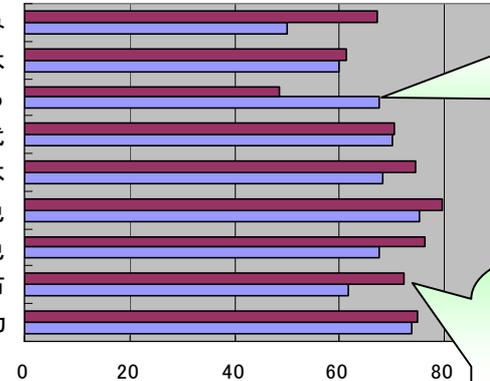
■ 市平均正答率  
■ 期待正答率

経済水域の特徴を問う選択問題では、期待正答率 70.0% に対して、正答率 41.25% で、沖ノ鳥島の緯度に関連する選択問題では期待正答率 65.0% に対して、正答率 56.4% でした。



## 中学 3 年生の結果

第二次世界大戦後の日本の歩み  
第一次世界大戦ごろの世界と日本  
明治初期～日露戦争のころ  
江戸時代  
さまざまな面からとらえた日本  
日本の気候の特色  
世界の気候の特色  
世界や日本の地形と人口分布  
世界の国々の調査－アメリカ



明治初期～日露戦争のころに該当する問題では、4 問の平均期待正答率 67.5% に対して、平均正答率 48.5% と落ち込んでいました。

■ 市平均正答率  
■ 期待正答率

地形図の読取の選択問題や造山帯の特色を問う記述問題が含まれた、世界や日本の地域と人口分布に該当する問題では、3 問の平均正答率が 72.2% と、地理分野で最も低い平均正答率でした。



# 古代までの日本，中世の日本

## 歴史の流れや特色を大きくとらえさせましょう！

時代の流れを国際関係や生活・文化とのかかわりを意識し，年表にまとめてみましょう！

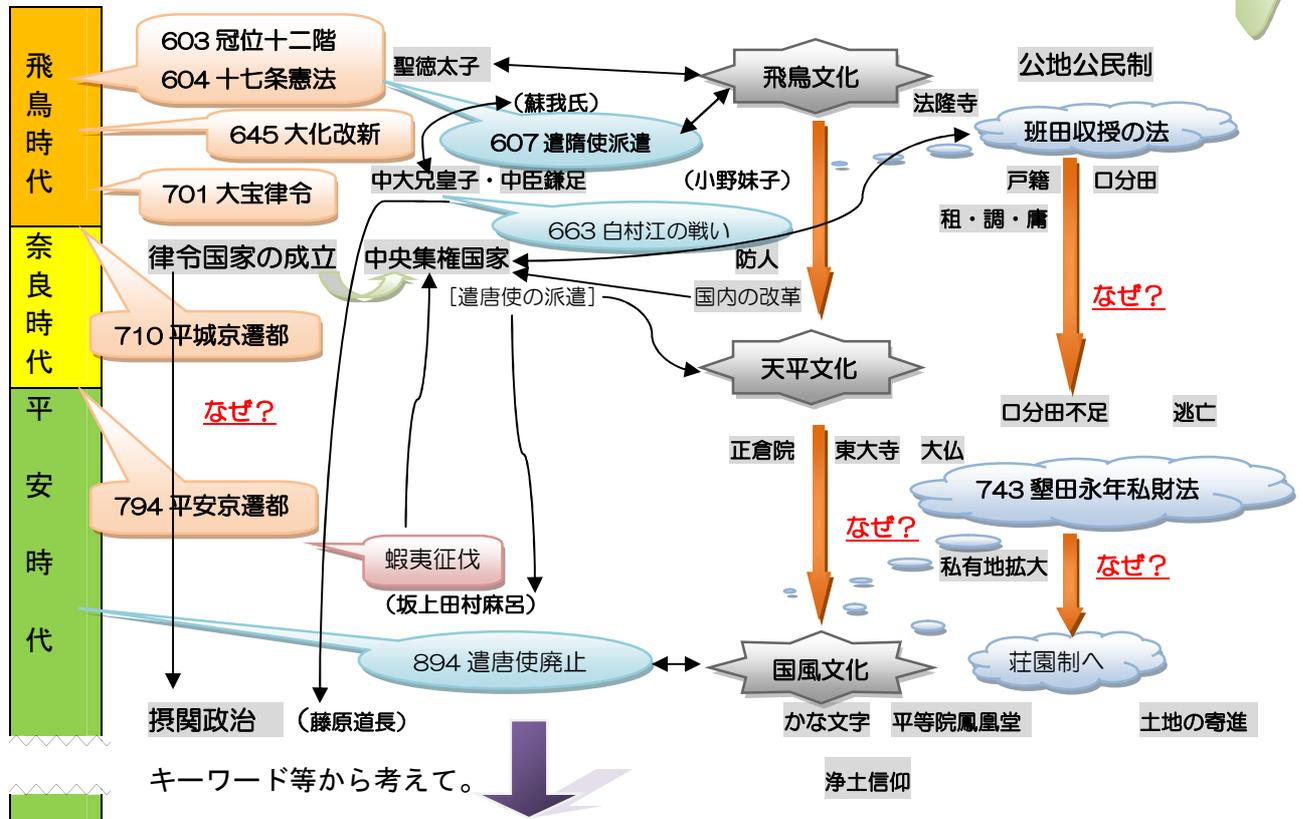
教材研究のポイントは，**教師自身が時代の特色を大きくとらえることです**。そのためには，時代区分に応じて，学習内容を整理することです。教材研究の一つの方法を以下に示しました。この方法で授業を展開すると，生徒も時代を大きくとらえることができます。

### Step

1. 政治，国際関係，生活・文化，経済など，各項目内容のかかわりに着目しながら教える内容を整理する。(KJ法などを利用すると「島分け」の過程で，教える内容を整理することができる)。
2. 「特色は何か？変化したわけ？」などを考察する。因果関係と流れを考慮し「年表」に整理する。
3. 時代の特徴を大きくとらえる。「〇〇時代とは，一言でいうと，〇〇〇な時代です。その理由は…。」



時代の流れ



なぜ？という因果関係を押さえさせながら，「古代とはどんな時代かな？」「奈良時代とはどんな時代かな？」と生徒に問いかけ，理由を考えさせ，発表させましょう！

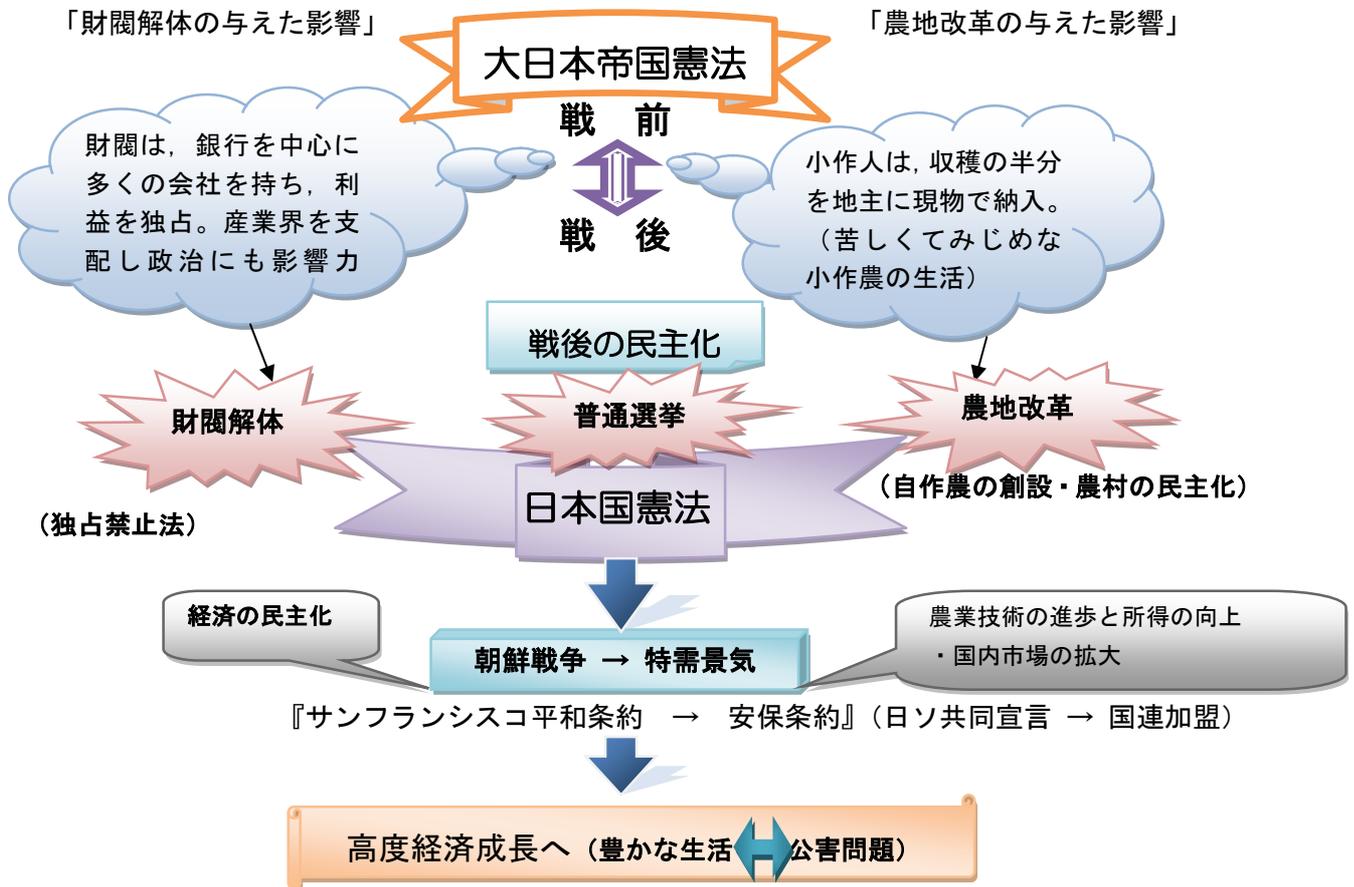
## 近現代の日本と世界

### 複雑な歴史的事象の意味、意義の明確化と諸事象の因果関係の構造化を！

なぜ → その結果 → どのように変わったの (因果関係を意識し構造化することが大切！)

近現代史では、歴史的事象が複雑になるため、一つ一つの歴史的事象の意味、意義を明確にすることと、各事象間の因果関係を構造化することが大切です。

「戦後の民主化政策が、社会に与えた影響について戦前と比較してみよう！」



## 地図帳の活用

### 地図、地球儀さらには地図帳の活用を指導しましょう！

地理的な見方・考え方を身に付けるためには、地図、地球儀や地図帳を活用した地理的技能のトレーニングが必要です。地理的技能を身に付けるために下の内容を繰り返し指導していきましょう。

- ◆地図帳の活用 ・索引が引ける ・統計資料が読める ・統計地図が読める
- ◆読図 ・方位が分かる ・縮尺が分かる ・距離が測れる ・地図記号が読める  
・緯度経度が分かる ・時差が分かる
- ◆作図 ・地図化できる ・略地図が描ける

① 教室に地図・地球儀を置いて、いつでも地図に親しめる環境を整えましょう。

観光マップや地下鉄図、高速道路地図、ビル内案内図など様々な地図も、授業で活用してみましょう。また朝の学活で、ニュースに出てきた地名などを、掲示してある地図や地球儀で場所を確認しましょう。

② 地図帳のつくり(構成)や使い方を指導し、繰り返し授業で活用しましょう。

地図帳は、基本図(世界の諸地域、日本の諸地域)のほか、様々な資料図や統計資料から作られています。「〇〇について調べたいときは、ここを見ればいいね」と、目次を使って構造的に指導しましょう。

(1) 地図帳や地図の使い方の指導例	
○地図帳の構造（目次の活用） ○身近な地名，有名な地名 ○その場所と宮城県（仙台市）との距離や方位 ○地図記号や地図の色の意味（高度段彩，土地利用と植生） ○一般図，主題図（資料図）の比較	○教科書のガイダンス同様，必ず目次を見て，地図帳全体を大観させる。 ○索引の使い方をマスターさせる。 ○地図で，世界や日本の姿（全体像）をとらえさせる。 ○現在いる場所からの距離感や方位観をつかませる。 ○地図から，その地域の特色・様子をつかませる。（地形から平野・山地がある，都市が連なっているなど） ○一般図，資料図を使い分けさせる。
(2) 地域の規模に応じた調査活動の中での地図帳や地図の活用の例	
○身近な地域の調査，野外調査活動（地図記号，距離の計算，等高線） ○都道府県の調査（例：東京都） ○都道府県の調査（例：福岡県） ○国調べ（例：アメリカ合衆国）	○大縮尺の地図の活用や新旧地図の比較をさせる。 ○調査活動で得た情報の地図化（分布図の作成）や考察をさせる。 ○資料図，昼夜の人口の違いから何が分かるか，読み取らせる。 ○北九州工業地帯はどのように変化したのか，地図帳の資料図から読み取らせ，そしてその理由を考えさせる。 ○アメリカの農業の特徴を分布図，農場の模式図，輸出額からまとめさせる。（日本の農家の様子と比較する地図もある）

## 応用力の育成

**基礎的・基本的な知識・技能を積極的に活用させる学習活動を取り入れましょう。**

**資料を読み取り，分析・考察させる活動を継続して実践しましょう。**

◎応用力・・基礎的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な **思考力、判断力、表現力等**

「応用力」を確かなものにするには，獲得した知識を概念的知識に結び付けさせることが大切です。そのために，「調べる」「考える」「表現する」（「まとめる」という社会科の学習展開を通して，生徒に必要な資質・能力をはぐくみましょう。特に，「考える」部分での学習活動の改善を行い，「なぜ」「どうして」という疑問を軸にして「考える力」の育成を図りましょう。

- 『個別に』 資料・地図等の読み取りから，分析・考察させる手立てを身につけさせる。
- 『集団で』 小集団学習・ペア学習を取り入れ，活発な意見交換を行わせ，「話す（分析・考察内容の伝達）」「聞く（分析・考察内容の受取）」「書く（分析・考察内容の整理・再整理）」等の活動を通して，思考の深化を図る。

### 意欲の喚起（主体的な学習の仕方の習得）

